

緩和医療専門医・認定医症例報告書における生成 AI 利用ガイドライン

本ガイドラインは、緩和医療専門医・認定医症例報告書において、申請者が ChatGPT などの生成 AI を利用する際に注意すべき事項を定めたものです。

生成 AI は業務効率の改善や医学の知識や症例に関する情報の補完に活用できますが、応答に用いる学習データにはバイアスや誤った情報が含まれる可能性があり、時には偏った情報や誤った情報を提供することがあるため、適正な利用を行う必要があります。緩和医療専門医・認定医症例報告書の作成に生成 AI を利用する際には、本ガイドラインの内容を十分に理解した上で、生成 AI を活用してください。なお、本ガイドラインは生成 AI の使用を推奨するものではありません。

生成 AI 利用における遵守事項

1. 入力内容を学習内容に反映しない設定をした上で利用すること。
2. 患者の個人識別情報を入力しないこと（ID、名前、住所、生年月日など）。
3. 症例報告書内において、執筆過程における生成 AI の使用用途についての開示を行うこと。生成 AI の使用が行われたことおよびその役割を明確に説明することで、評価者が情報の信頼性を正しく評価することができるようになります。
4. 【考察】および【本例から学んだこと】においては、生成 AI の出力をそのまま複製して利用せず、申請者の言葉で記載すること。

生成物の利用に際する注意事項

1. 症例に対する考察の情報補完における生成 AI の出力結果は参考になる場合もありますが、生成 AI はあくまでも補完的なツールです。生成 AI の出力を参考にする場合も、情報を鵜呑みにせず正確性や適切性を判断し、申請者の知識と学修と経験をもとに症例報告書を作成すること。
2. 生成 AI を症例報告書作成に用いる場合、生成 AI の出力は時に重要な情報や要点が欠落することがあります。また、結果は機械生成されたものであるため、文体や専門用語の調整が必要になる場合もあります。症例報告書作成に生成 AI を用いる際は、生成 AI の出力における専門用語の正確性や矛盾点などを確認した上で、申請者が責任をもって最終的な症例報告書を作成すること。
3. 生成 AI は、関連する文献を特定するためのアシスタントとして使用できますが、推奨される文献にバイアスがかかることがありますので、原著の内容を確認した上で申請者が責任を持って引用の是非を判断すること。

2024 年 12 月 15 日

特定非営利活動法人 日本緩和医療学会